

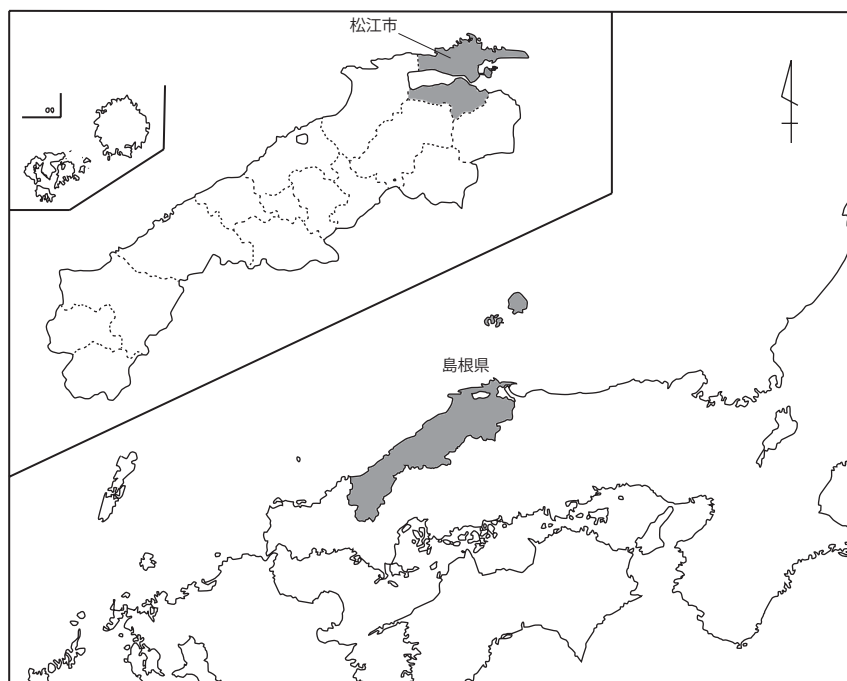
埋蔵文化財課年報〈22〉

平成 29 年度



2019 年 3 月

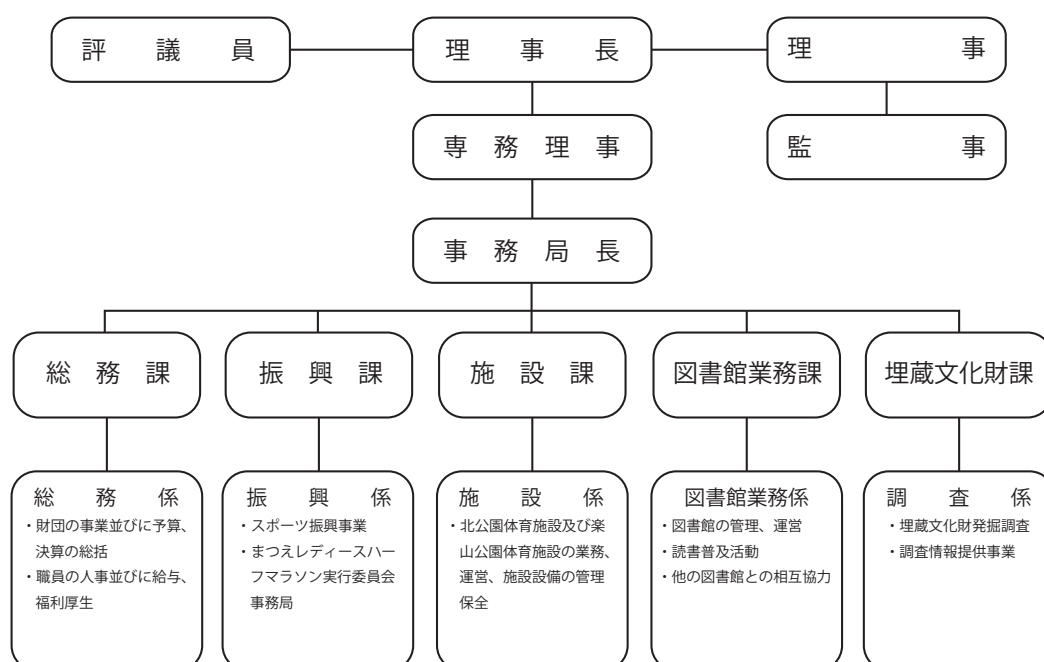
公益財団法人 松江市スポーツ・文化振興財団



松江市位置図

第1章 公益財団法人松江市スポーツ・文化振興財団の沿革と組織

- ◇ 設 立 昭和 51 年（1976 年）4 月 1 日 財団法人松江市教育文化振興事業団が設立される。
- ◇ 沿 革 平成 25 年（2013 年）4 月 1 日
公益財団法人松江市スポーツ振興財団に移行。
平成 28 年（2016 年）7 月 1 日
公益財団法人松江市スポーツ・文化振興財団に名称変更。
- ◇ 所在地 松江市末次町 86 番地
- ◇ 目 的 この法人は、教育・スポーツ・文化の振興に関する事業を行い、もって市政の発展と市民の福祉向上に寄与することを目的とする。
- ◇ 事 業 (1) スポーツをとおして市民の健康な心とからだをつくり、生涯スポーツの普及・振興を目的とする事業。
(2) すぐれた芸術文化や文化情報に接する機会の提供と市民に新しい芸術文化の創造と活動の拠点とし、文化活動の普及に関する事業。
(3) 多様化する市民の学習ニーズや図書館サービスへの対応を図り、市民に親しまれる文化の広場としての役割を高めることで、読書普及活動の推進に関する事業。
(4) 埋蔵文化財の適切な保護及び活用のため、発掘調査・研究・出土品の収集・整理及び調査結果の情報提供を行う事業。
(5) 児童及び青少年の健全な育成を目的とする事業。
(6) 教育・文化・スポーツ等に関する施設の管理運営に関する事業。
(7) その他この法人の目的を達成するために必要な事業。
- ◇ 組 織 （平成 29 年 4 月 1 日現在）



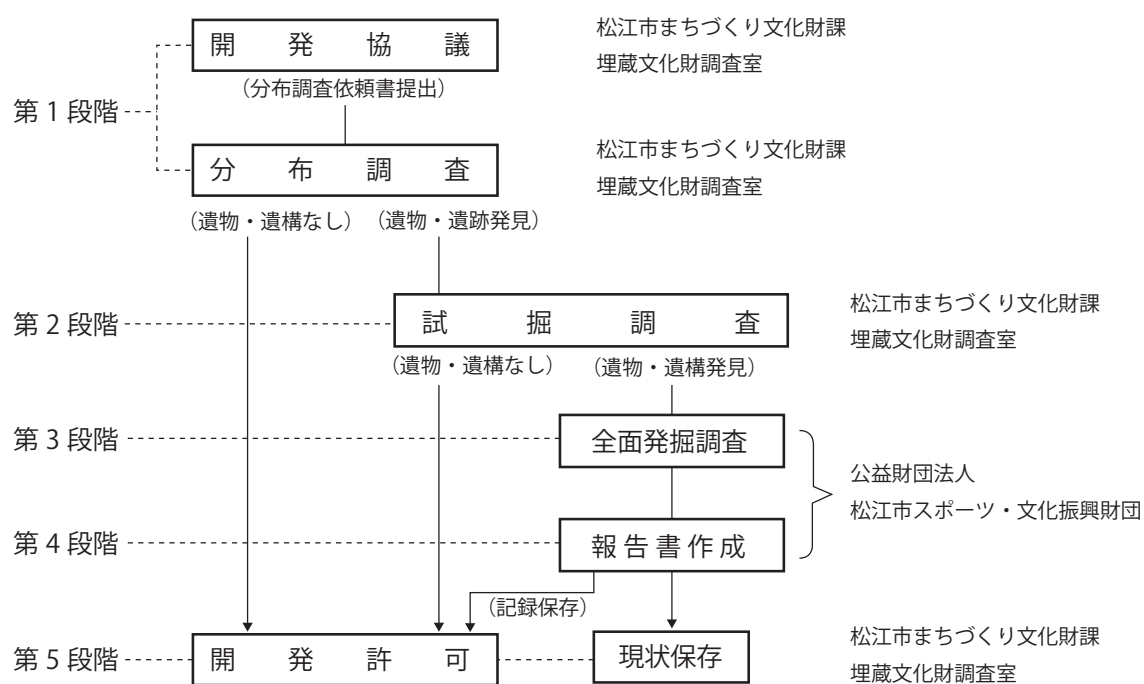
◇ 埋蔵文化財課

- ・設 立 平成5年7月1日
- ・所在地 〒690-0401 島根県松江市島根町加賀1263-1
- ・TEL 0852-85-9210
- ・FAX 0852-85-3611
- ・業 務 1) 埋蔵文化財の発掘調査に関すること。
2) 埋蔵文化財課の庶務経理(予算及び決算を含む)に関すること。

◇ 平成29年度 職員体制(平成30年3月31日現在)

理 事 長	清水伸夫 (平成30年5月28日～星野芳伸)
専務理事	安部 隆
事務局長	井原智延
埋蔵文化財課長	曾田 健
調査係長	川西 学
主 任	江川幸子 小山泰生
嘱託職員(調査員)	廣濱貴子 徳永桃代
嘱託職員(調査補助員)	北島和子 渡邊真二 宇津直樹 門脇祐介 黒田裕司 木村由希江
嘱託職員(事務)	後藤哲男 江角由巳

◇ 松江市埋蔵文化財業務フローチャート



第2章 平成29年度事業の概要

公益財団法人松江市スポーツ・文化振興財団埋蔵文化財課では、平成29年度において5班体制で、6遺跡の発掘調査と、工事立会調査、発掘調査報告書の作成を行った。事業の概要は以下のとおりである。

1. 発掘調査

城山北公園線都市計画街路事業に伴う松江城下町遺跡(殿町198-7外)、一般国道431号(野原工区)防災安全交付金(交通安全)工事に伴う礫岩古墳、(仮称)アークタウン西持田敷地造成工事に伴う柏木遺跡、朝酌町個人住宅造成・新築工事に伴う朝酌橋ノ谷遺跡、市道西尾大井線道路整備事業に伴う朝酌菖蒲谷遺跡、市道才軽尾線道路整備事業に伴う海崎古墳群の各調査を実施した。

後述する以外の遺跡に触れておくと、柏木遺跡では、弥生時代中期から中世の遺物包含層を調査した。朝酌橋ノ谷遺跡の調査では、古代道推定地を見下ろす立地の遺跡であったが、古代の遺構は希薄であった。

2. 工事立会調査

城山北公園線都市計画街路事業用地内の松江城下町遺跡が確認された箇所ので、全面調査が行えない場所について工事立会を行った。立会調査は10月で終了した。これに伴い、埋蔵文化財課母衣事務所を撤収した。

3. 報告書作成

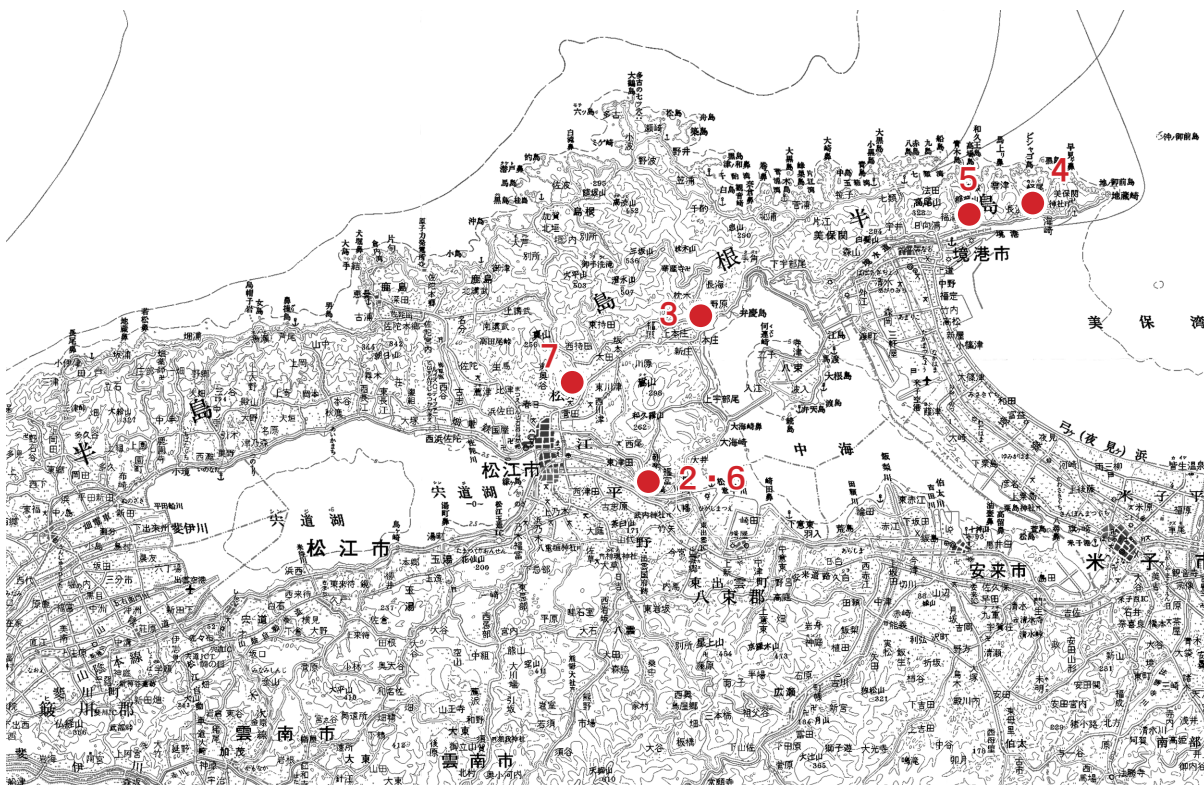
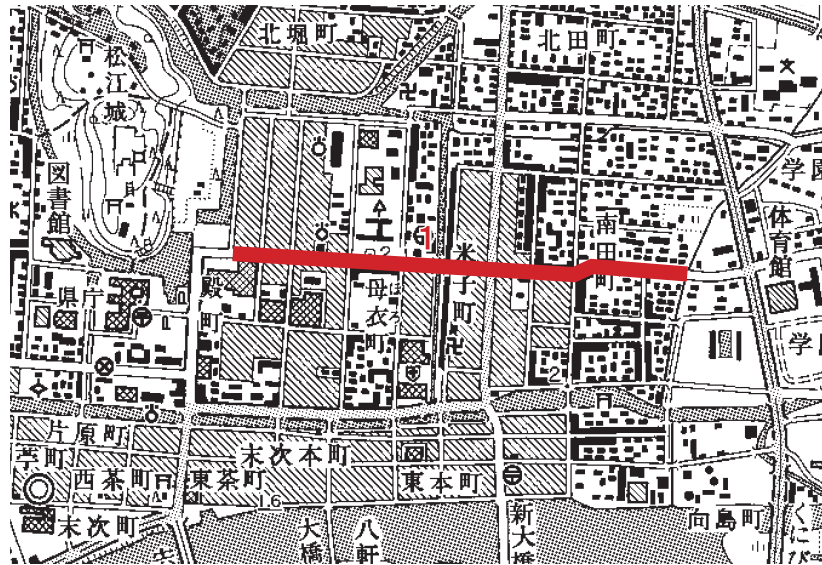
平成29年度は、下記の発掘調査報告書を作成した。

城山北公園線都市計画街路事業に伴う松江城下町遺跡報告書8、一般国道431号(野原工区)防災安全交付金(交通安全)工事に伴う礫岩古墳、山陰電力所設置工事のうち付属建物新築工事に伴う松江城下町遺跡(母衣町115)、(仮称)アークタウン西持田敷地造成工事に伴う柏木遺跡、市道西尾大井線道路整備事業に伴う魚見塚遺跡・朝酌菖蒲谷遺跡、市道福浦法田線道路改良工事に伴う福浦法田峠2号墳(H27市埋蔵文化財調査室調査実施)。

大橋川改修事業に関連する魚見塚遺跡(H28調査実施)の調査では、『出雲国風土記』記載の「まがれるみち枉北道きたに(おうほくどう)」と考えられる古代道を検出し、その変遷をまとめ、隣接する朝酌菖蒲谷遺跡成果と合わせ刊行した。

城山北公園線都市計画街路事業に伴う松江城下町遺跡の発掘調査は、平成17年度に始まり、平成29年度完了した。報告書8は、その最終報告書である。同事業によって近世松江城下町遺跡の認識を一新する調査結果を得ていたが、事業完了に伴い、最終の報告を行うとともに、その成果の総括を行った。

1. 松江城下町遺跡
2. 朝酌菖蒲谷遺跡
3. 礪岩古墳
4. 海崎古墳群
5. 福浦法田峠2号墳
6. 朝酌橋ノ谷遺跡
7. 柏木遺跡



あさくみしょうぶだに
朝酌菖蒲谷遺跡

1. 所在地 松江市朝酌町 999-1 外
2. 調査面積 1001.8㎡
3. 調査期間 平成 28 年 12 月 15 日～平成 29 年 5 月 24 日
4. 調査原因 市道西尾大井線道路整備事業
5. 遺跡の種類 土器棺墓・集落跡
6. 遺跡の年代 古墳時代・奈良時代
7. 遺跡の概要



調査地位置図

朝酌菖蒲谷遺跡は奈良時代に朝酌渡がおかれた大橋川から程近い場所にあり、魚見塚遺跡で見つかった隠岐国へ至る古代道路(枉北道) 推定ラインの東側に接する丘陵に位置している。調査時には現道敷設のため丘陵西端部が削平を受けていたが、本来の丘陵はもう少し西へのびていたようである。

この丘陵上で、古墳時代前期の土器棺墓 3 基とマウンドと思われる地形 1 か所、方墳の周溝と考えられる一状の溝 1 か所を検出した。土器棺墓の存在から、ここに古墳群が存在した可能性が考えられる。

当初期待された古代の遺構は、丘陵南斜面の下方部で検出した。多数の柱穴と溝の存在から、複数の掘立柱建物跡が切り合った状況が窺われる。そのほか、類例のない一辺 1m 前後で 4 隅に杭痕を持つ方形土坑 4 基、枉北道につながる可能性のある片側側溝の道路遺構もみつかった。遺物は主に丘陵の下に転落したような状態で出土した。古墳時代前期の壺破片が少数出土したほか、奈良～平安時代の土器が大量に出土しており、脚付きの硯や灰釉陶器の破片各 1 点の出土が注目される。

『出雲国風土記』島根郡条に「朝酌促戸。東に通道あり、西に平原在り、中央に渡あり。即ち、釜を東西に亘し、春秋に入れ出だす。大き小さき雑魚・浜藻、家に鬺ち、市人四より集ひて、自然に塵をなせり。…」とある。朝酌促戸は大橋川が川幅を狭めるあたりで、当遺跡はまさにその西端付近にあたる。遺構・遺物のほか、『出雲国風土記』の記載からも当遺跡における当時の賑わいが彷彿としてくる。

調査報告書は、松江市文化財調査報告書第 181 集として刊行した。

(江川幸子)



方形土坑群とその周辺

城山北公園線報告書作成

1. 所在地 松江市殿町・母衣町・米子町・南田町地内
2. 調査原因 城山北公園線都市計画街路工事
3. 遺跡の種別 城下町遺跡
4. 遺跡の年代 江戸時代
5. 報告書の作成と経過

平成 30（2018）年 8 月に新たに完成した城山北公園線（大手前通り）は、松江城の南東に位置する大手前（殿町）から東の学園南に向かう東西道路で、穴道湖大橋と国道 485 号線（くにびき道路）を結ぶ松江市内循環線の一部として重要な幹線道路となっている。

城山北公園線道路拡幅工事は、島根県民会館（殿町）から国道 485 号線（学園南）までの東西 1,047 m 区間を工事対象範囲とし、発掘調査はこの工事に伴って実施している。城山北公園線沿線で見つかった松江城下町遺跡の発掘調査は、殿町・母衣町・米子町・南田町地内で行われ、事前の試掘調査結果を踏まえて、遺構や遺物が確認された地点については遺跡とした上で本発掘調査（60 地点）を行っている。電線共同溝埋設・上下水道管やガス管等の管路掘削・その他の掘削工事を原因とする狭小範囲や道路横断部分などは立会調査（約 500 地点）で対応している。

城山北公園線沿線の発掘調査は、平成 18（2006）年度から本格的に始まり、平成 29（2017）年度までの約 12 年をかけて継続的に行われてきた。調査開始以前には、遺跡が現在の中心市街地と重複していることから大部分が消失しているものと考えられていたが、実際に調査を進めていくと地下には良好な状態で遺跡が残っていることが明らかとなってきた。これは松江城下町遺跡の特徴のひとつでもある水田や低湿地を埋め立てて形成された城下町であること、そして城下町形成以後も数回にわたって嵩上げ造成を繰り返しながら継続してきたためであり、厚い造成土に覆われた古い時期の地層ほど遺構と遺物が良好な状態で残っている。

発掘調査で検出した主な遺構には、城下町形成以前の水田跡や旧地表面、城下町の外郭施設に関わる堀や土手、屋敷地内の施設に関わる建物跡や庭園遺構、日常生活の痕跡を直接的に示す廃棄土坑（ゴミ穴）、地鎮具や祈祷具が埋納された祭祀遺構などが挙げられる。検出した遺構の配置は城下町の施設や屋敷地の土地利用を反映しており、その検出位置から遺構の性格が推定できることが多い。

発掘調査成果の報告については近世城下町の屋敷配置等を考慮して、便宜的に城山北公園線の街区を西側から東側へ向かって 16 箇所にブロック分けを行い、この区分を用いて調査が完了した地点から順次発掘調査報告書の作成を行っている。城山北公園線都市計画街路事業に伴う松江城下町遺跡の報告書はこれまでに 8 冊刊行し、各報告書には巻次を配して「城山 1 ～ 8」のシリーズ番号を付記している（右頁・表）。

このうち「城山 8」は当該事業最終年度の報告となっており、特に第 5 章に掲載した総括では、平成 18 ～ 29 年度の過去 12 年間にわたって発掘調査を実施した城山北公園線沿線の松江城下町遺跡に関わる全ての遺構と遺物の再検討および再評価を行い、その中から指標となる遺跡の抽出作業・遺

構面と検出遺構の確認・地層の把握（連続と非連続）・基本層序の確立・陶磁器組成・城下町の変遷など、多岐にわたる検証を行うことで現段階における松江城下町遺跡調査成果のひとつの到達点としてまとめている。また、「城山 8」の刊行に併せて松江城下町遺跡のパンフレットを発行した。これは、城山北公園線（大手前通り）の発掘調査成果を公開することで市民や観光客に松江城下町遺跡の存在を広く周知していただくことを目的とし、遺跡の概要について分かり易く解説した内容となるよう心掛けた（A4 判フルカラー 8 頁）。

松江城下町遺跡の発掘調査では、城下町形成以前の状況・城下町建設当初の状況・城下町成立以後にも建物の建て替えや嵩上げ造成がなされていたことなど、文献史料には残っていない当時の姿を断片的ではあるが明らかにしてきた。こうした成果は発掘調査だけで明らかになってきたものではなく、地質学や科学分析などの自然科学分野、文献史学や建築史学などの人文科学分野による調査研究によって得られた成果によるところも大きい。

一方で、まだまだ課題も多く、藩施設・町人地・寺社地の土地利用状況や階層性の実態など解明すべき点が山積している。今後は、松江城下町遺跡を様々な分野の視点から見直すことや共同研究を継続的に進めることで新たな理解へと繋がり、より豊かな松江の城下町像が描けるものと考えている。

（小山泰生）

城山北公園線都市計画街路事業に伴う発掘調査報告書刊行経過一覧表

刊行年度	巻次・シリーズ番号	工区	掲載ブロック	調査地	主な検出遺構
平成 23 年度	『市 148』「城山 1」	第 1 工区	第 5 ブロック	母衣町地内	屋敷境・石積土坑・廃棄土坑
			第 11 ブロック	南田町地内	石積土坑・廃棄土坑
平成 24 年度	『市 154』「城山 2」	第 1 工区	第 1 ブロック	殿町地内	製材関連遺構・廃棄土坑
			第 3 ブロック	殿町・母衣町地内	区画境・石積土坑・廃棄土坑
			第 4 ブロック	殿町・母衣町地内	区画境・石組水路
平成 25 年度	『市 156』「城山 3」	第 1 工区	第 1 ブロック	殿町地内	区画境・建物跡・上水樋遺構
			第 6 ブロック	母衣町地内	区画境・石組水路
			第 7 ブロック	母衣町地内	水田跡・区画境大溝・外堀石垣
			第 8 ブロック	母衣町地内	区画境・石組水路
			第 9 ブロック	米子町地内	町屋関連遺構
			第 10 ブロック	米子町地内	町屋関連遺構
	『市 157』「城山 4」	第 2 工区	第 12 ブロック	南田町地内	区画境・廃棄土坑
			第 16 ブロック	南田町地内	土手跡・畠跡・建物跡（与力屋敷）
平成 26 年度	『市 163』「城山 5」	第 2 工区	第 16 ブロック	南田町地内	畠跡・建物跡（与力屋敷）・屋敷境
	『市 167』「城山 6」	第 2 工区	第 13 ブロック	南田町地内	堀跡（障子堀）
平成 27 年度	『市 171』「城山 7」	第 1 工区	第 3 ブロック	殿町・母衣町地内	区画境・長屋門石垣
平成 29 年度	『市 185』「城山 8」	第 1 工区	第 1 ブロック	殿町地内	区画境・井戸
		第 2 工区	第 13 ブロック	南田町地内	区画境・屋敷境
			第 14 ブロック	南田町地内	池状遺構・廃棄土坑
			第 16 ブロック	南田町地内	畠跡・建物跡（与力屋敷）・屋敷境

磯 岩 古 墳

1. 所 在 地 松江市野原町字磯岩 586 番地
2. 調 査 面 積 178.0㎡
3. 調 査 期 間 平成 29 年 10 月 25 日～ 12 月 19 日
4. 調 査 原 因 一般国道 431 号（野原工区）
防災安全交付金（交通安全）工事
5. 遺 跡 の 種 別 古墳
6. 遺 跡 の 年 代 古墳時代・中世
7. 調 査 の 概 要



調査地位置図

磯岩古墳は島根県松江市の北東部に位置する。島根半島北西側丘陵から派生した丘陵突端に所在し、東側は中海に面している。南東側には中海を隔てて『出雲風国風土記』に「火神岳」と記載されている大山（伯耆富士）を望むことができる。

調査では、1 辺 20m 以上の中規模な方墳を検出した。明確な主体部は検出できなかったが、墳頂部平坦面に浅い土坑が存在していた。古墳に伴う遺物は乏しく、立地から古墳時代前半期頃のものと想定された。

また、古墳は、中世において改変されていたことが確認された。古墳の立地状況が大きく影響していると考えられ、豎堀や切岸の加工が施されていた。周辺から際立つ立地を求める前半期の古墳と、周辺を睥睨する目的で築かれる山城（砦）は、往々にして同一の立地となることがあり、今回の調査でそれを確認したものと考えられる。

今回の調査で、本遺跡の古墳時代、中世の様相を垣間見ることができたことは有意義であり、今後の検証において、当該地域史がさらに明確になることを期待したい。

（廣濱貴子）



磯岩古墳墳頂部完掘状況（北西から）



磯岩古墳南西側斜面（切岸）完掘状況（北西から）

かいざき 海 崎 古 墳 群

1. 所在地 松江市美保関町美保関 1244 番 1
2. 調査面積 131.6㎡
3. 調査期間 平成 29 年 8 月 22 日～ 29 年 11 月 14 日
4. 調査原因 市道才軽尾線道路整備事業
5. 遺跡の種類 古墳
6. 遺跡の年代 古墳時代
7. 遺跡の概要



調査地位置図

海崎古墳群は、島根半島の東端に位置し、標高 108 m の丘陵尾根上に 3 基の古墳が所在している。

1 号墳は、11 × 9 m、高さ 9 m の方墳である。埋葬施設は竪穴系横口式石室で、玄室の南西側に羨道が取り付くものである。遺物は須恵器の蓋坏や高坏、長頸壺、甕のほか、石錘、金属製品、ガラス小玉が出土している。

2 号墳は、13.5 × 10m、高さ 1.0m ～ 1.4m の方墳である。中心主体部は調査区外であるため確認していないが、墳頂部平坦面の北東側で小形の箱式石棺を検出している。遺物は、土師器の甕片や須恵器の坏蓋や高坏、甕が、箱式石棺から坏蓋が出土している。

3 号墳は、10.2 × 7.9m、高さ 1.8m ～ 2.0m の方墳である。主体部は横穴式石室で、墳丘の南東側と北東側で二段積みの外護列石を検出している。出土遺物は、須恵器の甕や甕片、耳環、ガラス小玉である。

海崎古墳群は、出土遺物や石室の形態から古墳時代後期（6 世紀初め）に 1 号墳が築造され、その後 7 世紀頃までに 3 号墳が造られたと考えられる。石室の形態をみると伯耆西部の影響を受けており、また、出土遺物のなかにも伯耆西部の類似品が含まれていることから、伯耆西部との交流を知ることができたことは注目される。今回の調査により、調査例の少ない島根半島東部において、後期古墳研究の大きな成果が得られたことは有意義であり、今後の調査事例の積み重ねにより、当地域の様相が解明されることを期待したい。

（廣濱貴子）



海崎古墳群 1 号墳石室（北東から）

ふく うら ほう だ とうげ 福 浦 法 田 峠 2 号 墳

1. 所在地 松江市美保関町福浦 501 番地 2
2. 調査面積 122.32㎡
3. 調査期間 平成 27 年 12 月 10 日～ 28 年 2 月 26 日
4. 調査原因 市道才軽尾線道路整備事業
5. 遺跡の種類 古墳
6. 遺跡の年代 古墳時代後期
7. 遺跡の概要



市道才軽尾線道路整備事業にともない、平成 27 年度に松江市歴史まちづくり部まちづくり文化財課埋蔵文化財調査室によって発掘調査が実施され、その報告書作成を実施した。

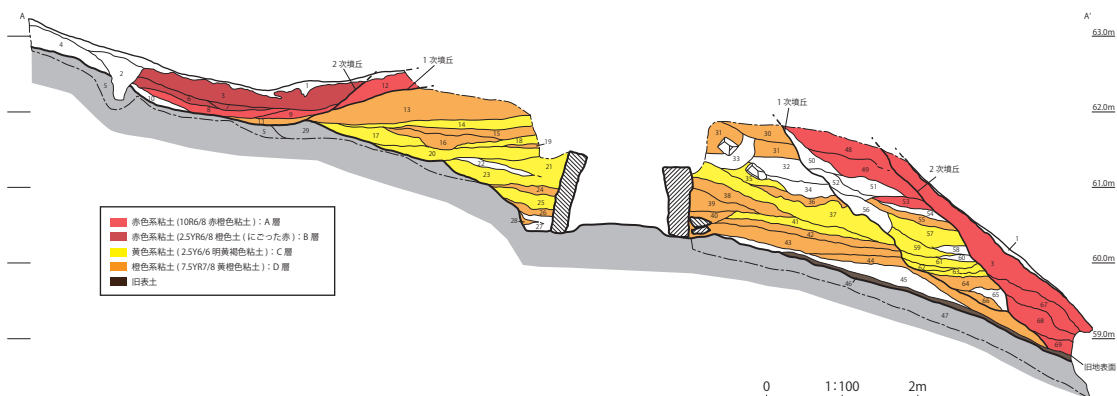
境水道を見下ろす丘陵南斜面に位置する径 10m 弱の古墳時代後期の円墳で、主体部は両袖の横穴式石室であった。石室は、盗掘により石室天井石や玄室床石の一部が抜き取られていることが判明したものの、圭頭大刀片や勾玉などの玉類・金銅製の耳環のほか、須恵器が出土した。出雲 4 期古段階に石室築造前に何らかの祭祀が行われ、石室の築造を経て、出雲 5 期に追葬、出雲 7・8 期に最終的な石室への進入があったものと考えられる。また、石室基底部までの調査によって、玄門石材も深く埋め込まれていることが判明するなど、多くの知見を得ることができた。

松江市美保関町地内では初の本格的な発掘調査が行われた後期古墳となり、海崎古墳群とともに、出雲地方東部での石棺式石室の盛行とは別の系譜をもつ横穴式石室が築造され続けるという、美保関地域の特徴的な後期古墳の様相を知るうえで、貴重な成果をまとめることができた。

(赤澤秀則)



玄門前遺物出土状況



墳丘横断面図 (1 次墳丘と 2 次墳丘がある)

第3章 平成28年度以前の調査

年度	遺 跡 名	所 在 地	遺 跡 の 概 要	報告書
H 5	金代1号古墳外	西浜佐陀町	粘土槨を伴う長大な割竹型木棺検出。水銀朱・鏡・玉類出土。	1994 刊
H 5	菅沢谷横穴群	乃白町	横穴墓12基を検出。	1994 刊
H 5	向遺跡	国屋町	奈良～平安期の集落跡検出。	1994 刊
H 5	論田4号墳	西津田町	(課設立以前の報告書作成) 古墳時代後期円墳と横穴墓群の調査成果。	1994 刊
H 5	柴尾遺跡	上東川津町	前期古墳と、縄文時代後期の黒曜石を中心とする石器生産遺跡を確認。	1994 刊
H 5	角森遺跡	八幡町	弥生後期～古墳時代にかけての遺物包含地。	1994 刊
H 5	敷居谷古墳群	東生馬町	5世紀の方墳を含む計3基の方墳を検出。後世の祭祀関連遺物が出土。	1994 刊
H 5	出雲国分寺跡	竹矢町	僧房の西方を調査。瓦溜り検出。	1995 刊
H 5	深田遺跡	大庭町	奈良～平安期の道路状遺構と円形土坑列を検出。	
H 5	岩汐峠遺跡ほか	大井町	礫石経塚を検出。	1999 刊
H 5	出雲国府跡	大草町	直接国府に関連する遺構は検出されなかった。	
H 5	勝負谷遺跡	大庭町	さいの神と積石塚、古代と考えられる道路状遺構を検出。	1999 刊
H 5	松江北東部遺跡	上本庄町	遺物包含層のみ検出。遺構は検出されなかった。	1999 刊
H 6	敷居谷古墳群	東生馬町	後期初頭の方墳。主体部から太刀等が出土。	1995 刊
H 6	松江北東部遺跡	上本庄町	遺物包含層のみ検出。遺構は発見されなかった。	1999 刊
H 6	米坂遺跡	西尾町	古墳時代中期から後期初頭の堀立柱建物群検出。	1999 刊
H 6	舟津横穴群	薦津町	横穴墓2穴と近世貯蔵穴3穴を検出。	1995 刊
H 6	筆ノ尾横穴群	東長江町	横穴墓5基を検出。	1995 刊
H 6	寺の前遺跡	山代町	自然流路から古代瓦、陶製鷗尾等が出土。	1995 刊
H 6	黒田畦遺跡	大庭町	奈良時代の土坑内から墨書土器・製塩土器・律令様式の土器が出土。	1995 刊
H 6	二名留遺跡	乃木福富町	古墳時代と近世の遺物包含地。	1995 刊
H 6	向山1号墳	大庭町	トレンチ調査で未盗掘の石棺式石室発見。	1996 刊
H 7	向山古墳群	大庭町	32×20m以上の方墳。義道から前庭にかけて馬具、玉等が出土。	1998 刊
H 7	遅倉横穴群	朝酌町	横穴墓5基を検出。	1999 刊
H 7	松江北東部遺跡	上本庄町	遺物数片が出土。遺構は検出されなかった。	1999 刊
H 7	宮尾古墳群ほか	西川津・上東川津町	石器のほか、室町後期～安土桃山時代の五輪塔2基が出土。	1996 刊
H 7	袋尻遺跡群	乃白(現平成)町	堅穴住居跡7棟、土壙5基、後期古墳2基、近世墓2基等を検出。	1998 刊
H 7	四王寺跡	山代町	調査範囲が狭く、四王寺との関連性を判断するには至らなかった。	1996 刊
H 7	大久保遺跡	乃白町	焼土壙、ピットを検出。	1996 刊
H 7	川原後谷横穴群	川原町	横穴墓の墓道のみ調査。	1996 刊
H 7	寺山小田遺跡	矢田町	古墳時代中～後期の集落跡検出。2棟の建物内から玉類出土。	1996 刊
H 8	小無田Ⅱ遺跡	山代町	山代郷南新造院の瓦を焼いた8世紀代の瓦窯跡3基を検出。	1997 刊
H 8	米坂遺跡	西尾町	古墳時代中期の集落跡を検出。	1999 刊
H 8	柴Ⅲ遺跡	西川津町	弥生終末期の玉造工房跡含む堅穴式住居跡3棟等を検出。	1997 刊
H 8	袋尻遺跡群	平成町	古墳6基、堅穴住居跡1棟、堀立柱建物跡1棟、土壙3基、横穴墓3穴を検出。	1998 刊
H 8	松江北東部遺跡	上本庄町	堅穴住居跡と堀立柱建物跡を検出。子持勾玉が出土。	1999 刊
H 9	大佐遺跡群	西持田町	古墳時代初頭の墳丘墓と、戦国時代の真山城塞群の一部を検出。	1999 刊
H 9	米坂古墳群	西尾町	古墳時代中期～後期の方墳7基と埋葬施設8基を検出。	1999 刊
H 9	柴尾遺跡	西尾町	遺構、遺物は検出されなかった。	1999 刊
H 9	松江北東部遺跡	上本庄町	中世の堀立柱建物跡2棟、井戸状遺構1基を検出。有舌尖頭器出土。	1999 刊
H 9	田和山遺跡群	乃白町	弥生時代前期～中期の3重の環壕を検出。銅剣形石剣などが出土。	2005 刊
H 10	夫手遺跡	手角町	約6000年前の漆液容器、木製の櫓が出土。	2000 刊
H 11	久米遺跡群	比津町	古墳時代後期～奈良時代の堅穴住居跡1棟、堀立柱建物跡11棟を検出。	2000 刊
H 11	門田遺跡	乃木福富町	弥生時代中期の自然流路、溝、土壙、ピット、杭列などを検出。	2000 刊
H 11	大坪遺跡	山代町・大草町	「恐々謹解・・・」と記された木簡が出土。	2001 刊
H 10 ～ H 11	田和山遺跡群	乃白町	三重の環壕検出。濠の外側で堅穴住居跡、堀立柱建物跡を多数検出。	2005 刊
H 12	北小原古墳群	西浜佐陀町	石棺2基検出(内1基は現状保存)。小型仿製鏡が出土した。	2000 刊
H 12	田中谷遺跡Ⅲ区	法吉町	堀立柱建物跡と自然河道を検出。	2001 刊
H 12	雲垣遺跡	乃白町	弥生時代中期を中心とした遺物包含地。	2001 刊
H 12	大坪遺跡	山代町・大草町	自然流路に挟まれた微高地の存在を確認。木製品出土。	2002 刊
H 12	法吉遺跡	法吉町	自然流路からドングリ集積遺構を検出。縄文土器の細片や黒曜石が出土。	2002 刊
H 12	舎入遺跡	国屋町・黒田町	城跡に結びつく遺構は確認されなかった。近世以降の遺物が出土。	2002 刊
H 13	奥山古墳群	上乃木町	古墳時代中期頃の方墳6基を調査。鉄剣や鉄鏃等が出土。	2002 刊
H 13	大坪遺跡	山代町・大草町	自然河道を検出。古墳中期～後期の土器と木製品が出土。	2002 刊
H 13	荒隈城跡(小十太郎地区)	国屋町	近世以降の古墳群を検出。幕末～近世の土器出土。	2002 刊
H 13	法吉遺跡	法吉町	土壙や杭列を検出。弥生～10世紀代の土器、木製品が出土。	2002 刊
H 13	山津窯跡	大井町	土坑、溝、旧河道などを検出。古墳～奈良時代の遺物出土。	2006 刊
H 13	田和山遺跡	乃白町	建物跡、土壙、小石棺、自然流水路などを検出。	2005 刊

年度	遺 跡 名	所 在 地	遺 跡 の 概 要	報告書
H 14	石田遺跡	浜佐陀町・薦津町	弥生中期～奈良時代の竪穴住居跡や墓壇、水溜遺構等を検出。	2004 刊
H 14	犬丸遺跡	上大野町	溝 2 条・土坑 3 基を検出。	年報Ⅶ
H 14	渋ヶ谷遺跡（措松地区）	上乃木町	道路状遺構や溝状遺構、上幅 6 ～ 7 m の断面 V 字～逆台形の大溝を検出。	2005 刊
H 14	田和山遺跡群	乃白町	掘立柱建物、小石棺を検出。	2005 刊
H 14	法古遺跡	法吉町	湿地層から、弥生～ 10 世紀の土器片と木製品が出土。	2004 刊
H 14	山津遺跡	大井町	6 世紀後半と 8 世紀前半の須恵器窯跡等を検出。鷗尾・陶棺が出土。	2006 刊
H 14	薦沢砦跡	法吉町	城郭遺構は検出されなかった。	2005 刊
H 15	菅田横穴墓群	菅田町	横穴墓 22 穴を検出。	2005 刊
H 15	渋ヶ谷遺跡（措松地区）	大庭町	道路状遺構や溝状遺構、大溝を検出。	2006 刊
H 15	山津窯跡	大井町	窯壁と 7 世紀中～後半の須恵器が出土。	2006 刊
H 15	井廻古墳	上大野町	石棺の一部が残存。	年報Ⅷ
H 15	宮ノ前遺跡	持田町	竪穴住居跡 2 棟等を検出。弥生時代後期～古墳時代前期の遺物が出土。	年報Ⅷ
H 15	石田遺跡	浜佐陀町・薦津町	弥生時代の加工段と古墳 1 基を検出した。主体部から鏡等が出土した。	2004 刊
H 15	荒隈城跡（小十太郎地区）	国屋町	大規模な土木工事による山城遺構を検出。	年報Ⅶ
H 16	渋ヶ谷遺跡	大庭町	古墳時代の竪穴住居跡・掘立柱建物跡を検出。焼失住居も確認。	2006 刊
H 16	渋ヶ谷 1 号窯	大庭町	6 世紀初頭の須恵器窯を検出。	2006 刊
H 16	措松遺跡	大庭町	古代道路遺構と考えられる遺構を検出。	2006 刊
H 16	山津遺跡	大井町	7 世紀代の須恵器と窯壁の塊が出土。	2006 刊
H 16	久傳遺跡	比津町	古代時代を中心とする掘立柱建物跡を 7 棟検出。	2006 刊
H 16	向山西遺跡	古志原	丘陵頂部付近から弥生後期初頭の竪穴住居跡 2 棟を検出。	2006 刊
H 17	鵜灘山遺跡他	鹿島町名分	弥生後期初頭の玉作工房跡を検出。	2007 刊
H 17	二反田遺跡	春日町	弥生時代の竪穴住居跡 3 棟、中近世の大型土坑を検出。	2006 刊
H 17	勝負奥遺跡	乃白町	弥生後期中葉の竪穴住居跡を検出。	2006 刊
H 17	矢の原Ⅱ遺跡	上乃木町	道路状遺構を 2 条検出。	年報Ⅹ
H 17	山津遺跡 G 区	大井町	7 世紀末頃を主とする須恵器片と 5 体の土馬が出土。	年報Ⅹ
H 17	松江城下町遺跡	母衣町	松江裁判所跡で、城下町形成時の造成土を確認。	年報Ⅹ
H 18	西川津遺跡 C 区	西川津町	大量の縄文土器・弥生土器・土師器・石器が出土。	2011 刊
H 18	古屋敷Ⅱ遺跡	西川津町	10 ～ 11 世紀前後を主とする土師器・須恵器と若干のピットを検出。	2011 刊
H 18	大勝間山城跡	鹿島町名分	中世の山城跡。弥生中・後期の住居跡と運河佐陀川の揚土置場を検出。	2009 刊
H 18	鵜灘山遺跡他	鹿島町名分	H 17 年に調査が許可されなかった大勝間山城の一隅を調査。	2007 刊
H 18	団原Ⅱ遺跡	大庭町	近世～現代の畑や坑を確認。	
H 18	松江城下町遺跡	殿町 287	家老屋敷跡の調査で、4 つの遺構面を検出。	2011 刊
H 18	松江城下町遺跡	南田町 77-1 外	素掘りの大溝やウラジロ敷詰層を検出。	2012 刊
H 18	松江城下町遺跡	南田町 52-32 外	ウラジロ（シダ）を敷いた跡を検出。	2012 刊
H 18	松江城下町遺跡	南田町 52-1 外	〃	2012 刊
H 18	松江城下町遺跡	母衣町 193-2 外	石組水路を検出。	2014 刊
H 18	松江城下町遺跡	殿町 344 外	柱穴列、石組、石列や竹組を伴う遺構を検出。	2013 刊
H 18	松江城下町遺跡	殿町 345-1 外	石垣と石列を検出。	2013 刊
H 18	田原谷遺跡	春日町	古墳時代の土壇墓の他、中・近世の建物跡を検出した。	
H 18	岩汐窯跡	大井町	須恵器窯跡 1 基を確認した。	2009 刊
H 18	石の堂・新宮遺跡	岡本町	両遺跡とも土師器等の遺物を含む自然流路を検出した。	2009 刊
H 19	松江城下町遺跡	殿町 287、279	家老屋敷跡の調査。南北に別々の屋敷跡が存在した。	2011 刊
H 19	松江城下町遺跡	母衣町 68	武家屋敷跡の調査。	2012 刊
H 19	松江城下町遺跡	米子町 49-3	武家屋敷跡の調査で、4 つの遺構面を確認。	2014 刊
H 19	松江城下町遺跡	米子町 40-4	町屋と思われるところを調査。礎石を確認し、大量の陶磁器類等が出土。	2014 刊
H 19	松江城下町遺跡	南田町	武家屋敷跡の調査。江戸時代初期の造成工事に伴うウラジロや杭を検出。	2012 刊
H 19	佐太前遺跡	鹿島町佐太宮内	弥生時代前期の大溝と中世の大型建物を検出。	2010 刊
H 19	田中谷Ⅱ遺跡	西法吉町	加工段やピットを検出。9 世紀代の須恵器類が出土。	2008 刊
H 19	小原遺跡	八雲町東岩坂	中世の墓壇と思われる土坑を検出し、竜泉系の青磁や渡来銭が出土。	2008 刊
H 19	千酌条里制遺跡・中殿遺跡	美保関町千酌	条里関連の暗渠を検出。中殿遺跡から弥生後期～古墳中期の遺物が出土。	2010 刊
H 19	春日山古墳群・寺ノ脇遺跡	手角町町並	古墳前期～中期の古墳群。寺ノ脇遺跡は縄文時代～近世の遺物が出土。	2009 刊
H 19	砂口遺跡	大庭町	古墳中期の住居跡と推定される遺構を検出。弥生中期の遺物も数点出土。	
H 19	大坪遺跡	大草町・山代町	弥生時代の住居跡を検出。	2008 刊
H 19	能登堀遺跡	穴道町穴道	古墳後期の溝状遺構を検出。中国磁器や石製硯が出土。	2009 刊
H 19	大勝間山城跡	鹿島町名分	弥生中・後期の住居跡、山城の曲輪、近世運河の造作遺構を検出。	2009 刊
H 19	西屋敷遺跡	大庭町	地山を覆う層から少量の須恵器が出土。	
H 19	清水遺跡	鹿島町佐太宮内	中世の土地造成、18 世紀代の掘立柱建物を検出。	
H 19	石台Ⅱ遺跡	東津田	流水の堆積土層を確認。中世の土師質土器や弥生前期の遺物が出土。	2009 刊
H 19	乃木西廻遺跡	上乃木町	中世の祭祀遺構を検出。土坑から中国製褐四耳壺が出土した。	年報Ⅺ

年度	遺 跡 名	所 在 地	遺 跡 の 概 要	報告書
H 20	松江城下町遺跡	米子町 47	武家屋敷の調査。ゴミ穴を検出した。	2014 刊
H 20	松江城下町遺跡	南田町 52-7	武家屋敷の調査。ウラジロを検出した。	2012 刊
H 20	松江城下町遺跡	母衣町 40 外	武家屋敷の調査。3つの遺構面から土坑や水路、建物礎石などを検出。	2013 刊
H 20	松江城下町遺跡	母衣町 68	H 19 からの継続調査。石組遺構や井戸、土坑などを検出。	2012 刊
H 20	松江城下町遺跡	殿町 287、279	H 19 からの継続調査。江戸初期の建物礎石などを検出。	2011 刊
H 20	石台Ⅱ遺跡	東津田	H 19 からの継続調査。縄文土器や弥生土器などが出土。	2009 刊
H 20	千酌条里制遺跡・中殿遺跡・修理田遺跡	美保関町千酌	H 19 からの継続調査。修理田遺跡から掘立柱建物跡を検出。	2010 刊
H 20	寺ノ脇遺跡	手角町町並	H 19 からの継続調査。古墳後期の遺構面を検出。縄文～古墳の土器が出土。	2009 刊
H 20	松江城下町遺跡	母衣町・米子町・南田町	工事立会調査。29ヶ所で実施し、主にゴミ穴を検出。	2012 刊
H 20 ～ H 21	佐太前遺跡	鹿島町名分	H 19 からの継続調査。中近世の遺構面から大型掘立柱建物跡を検出。	2010 刊
H 20	戸崎遺跡	上佐陀町	弥生中期末～後期初頭の竪穴住居跡を検出。	2008 刊
H 20	能登堀遺跡	穴道町穴道	H 19 からの継続調査。遺構は検出されず、遺物包含層を確認。	2009 刊
H 21	出雲国分寺跡	竹矢町	伽藍城区画溝、瓦敷遺構 2 基、粘土採掘坑 8 基等を検出。	2010 刊
H 21	石流遺跡	法吉町	7 世紀初頭の加工段、掘立柱建物跡等を検出。	2010 刊
H 21	来美南遺跡	山代町	遺構は検出されなかった。古代瓦が多数出土。	2009 刊
H 21	史跡出雲玉作跡宮ノ上地区	玉湯町	江戸時代の御茶屋建物に付随する庭園の調査。苑池に水を引く導水路を検出。	2010 刊
H 21	池平山城跡	鹿島町	中世山城の調査で、郭、道路状遺構等を確認。	2009 刊
H 21	上講武清水遺跡	鹿島町	8 世紀前後の掘立柱建物跡 1 棟や土坑、溝状遺構、ピット群を検出。	2011 刊
H 21	佐太前遺跡	鹿島町	工事立会。古代末～中世の遺構面と弥生時代後期～古墳時代初の遺構面を検出。	2010 刊
H 21	松江城下町遺跡	母衣町 40 外	遺構面を 3 面検出した。江戸時代初頭面で土坑、壁、溝状遺構を確認。	2013 刊
H 21	松江城下町遺跡	殿町 344 外	遺構面を 4 面検出。17 世紀初頭の遺構面では土留工事跡を検出。	2013 刊
H 21	松江城下町遺跡	殿町・母衣町・米子町・南田町	工事立会調査を 56ヶ所で実施。江戸時代の石組水路、ゴミ穴等を検出。	2013 刊
H 21	松江城下町遺跡	米子町 55 - 5	町屋の調査。礎石や石積遺構を検出。獣骨が入った桶が出土。	2014 刊
H 21	松江城下町遺跡	殿町 191-13 外	武家地屋敷の調査で、柱穴、ゴミ穴を検出。	2013 刊
H 22	西後遺跡	西谷町	時期不明の掘立柱建物跡を検出。	2012 刊
H 22	米塚遺跡	西谷町	礫石経塚を検出。	2012 刊
H 22	上講武大石遺跡	鹿島町上講武	8 世紀中頃～9 世紀前半の集落跡を検出。	2012 刊
H 22	キコロジ遺跡	朝酌町	6 世紀後半～9 世紀の遺物が大量に出土。	2011 刊
H 22	石屋遺跡	東津田町	どんぐりの貯蔵穴 1 基を検出。	2011 刊
H 22	出雲国分寺跡	竹矢町	南門から中門の参道脇を調査。独立ピット（旗立痕か）1 基を検出。	2015 刊
H 22	出雲国分寺跡	竹矢町	南門前を調査。造成土を検出。	2012 刊
H 22	野塚遺跡	八束町	時期不明の掘立柱建物跡を検出。	2011 刊
H 22	松江城下町遺跡	殿町 344 外	武家屋敷の調査で、7つの遺構面を検出。	2013 刊
H 22	松江城下町遺跡	母衣町 180-28・29	外掘石垣と、それに繋がる基壇状石垣を検出。	2014 刊
H 22	松江城下町遺跡	南田町 80-11	武家屋敷の調査で、ゴミ穴等のほか、江戸時代初期の溝を検出。	2014 刊
H 22	松江城下町遺跡	殿町・母衣町・南田町	工事立会調査を 22ヶ所で実施。素掘りの大溝を各所で検出。	2014 刊
H 22	松江城下町遺跡	南田町 134-11 外	堀尾期～京極期の畠跡を検出。松平期の掘立柱建物跡、礎石建物跡を検出。	2014 刊
H 23	後廻遺跡	上乃木	弥生後期から古墳時代前期にかけての竪穴住居跡、布堀り掘立柱建物跡を検出。	2011 刊
H 23	王子坂遺跡	上乃木	時期不明の掘立柱建物跡等を検出。縄文時代晩期から近代に至る遺物が出土。	2012 刊
H 23	スモト遺跡	古曽志町	時期不明の掘立柱建物跡等を検出。弥生中期後半から中近世の遺物が出土。	2011 刊
H 23	江分遺跡	竹矢町	弥生中期から後期末の遺構や古墳時代後期を中心とする粘土採取坑を検出。	2012 刊
H 23	松江城下町遺跡	母衣町 68	幕末から明治時代頃の礎石建物跡を検出。	2015 刊
H 23	松江城下町遺跡	南田町 136 - 13 外	7 面の内、1～4 面の調査を実施。礎石建物跡、掘立柱建物跡、屋敷境を検出。	2014 刊
H 23	松江城下町遺跡	殿町 198 - 2 外	江戸時代後期以降の木樋を検出。素掘りの大溝（南北溝）を検出。	2014 刊
H 23	松江城下町遺跡	母衣町 45 外	6 面の遺構面を検出。植栽痕、礎石、ピット、大形の土坑、素掘りの大溝を検出。	2013 刊
H 23	松江城下町遺跡	母衣町 180 - 28・29	前年度の西側(2 区)を調査。礎石建物、掘立柱建物、素掘りの大溝、水田跡を検出。	2014 刊
H 23	松江城下町遺跡	母衣町 100 外	北、東で屋敷境と思われる素掘りの溝を検出。東側の溝は幅 20m を測る。	2012 刊
H 23	松江城下町遺跡	殿町・母衣町・米子町・南田町	工事立会調査を 36ヶ所で実施。石組水路、素掘りの大溝を検出。	2014 刊
H 24	山代沖田遺跡	山代町	中世前半以降の掘立柱建物跡、総柱建物跡を検出。	2012 刊
H 24	柳堀遺跡	大庭町	近世の溝、時期不明の柱穴、土坑、杭列や自然河道を検出。縄文～近世の遺物。	2014 刊
H 24	松江城下町遺跡	母衣町 127-2・128・198-1	礎石建物跡、屋敷境石垣、廃棄土坑、掘立柱建物跡、素掘りの大溝を検出。	2013 刊

年度	遺 跡 名	所 在 地	遺 跡 の 概 要	報告書
H 24	松江城下町遺跡	母衣町 68	第 3 ～ 6 面の調査。第 3 遺構面で大量の肥前磁器、中国磁器が一括出土。	2015 刊
H 24	松江城下町遺跡	殿町 198-2 外	H23 年度調査区の南側で木樋の続きを検出。その東側では竹樋を検出。	2014 刊
H 24	松江城下町遺跡	母衣町 44 外	塀、石積土坑、土坑、植栽痕、素掘り大溝を検出。	2014 刊
H 24	松江城下町遺跡	南田町 130-6 外	第 3 面で堀尾期、あるいは堀尾期から京極期の掘立柱建物跡を検出。	2018 刊
H 24	松江城下町遺跡	南田町 136-13 外	第 5 ～ 7 面の調査。第 5 面で畠跡を、第 6 面で掘立柱建物跡、土坑群を検出。	2014 刊
H 24	松江城下町遺跡	南田町 137-13 外・137-10 外	第 2、3 面で、敷葉工法を用いて造られた川土手を検出。	2014 刊
H 24	松江城下町遺跡	殿町・母衣町・米子町・南田町	立会調査。米子橋の西側橋台部下で古石垣の跡と思われる集石遺構を検出。	2018 刊
H 25	白畑遺跡	鹿島町	23 基の近世土坑墓を検出。	2015 刊
H 25	二部遺跡	古曾志町	縄文時代～古墳時代にかけての土器散布地。溝状遺構や土坑も検出。	2015 刊
H 25	大庭原ノ前遺跡	大庭町	奈良時代～江戸時代の掘立柱建物跡を検出。	2014 刊
H 25	松江城下町遺跡	南田町 101-21 外	江戸時代における 4 面の遺構面を確認。川砂を造成土として使用。	2018 刊
H 25	松江城下町遺跡	南田町 127-17 外・127-14 外・130-3 外	堀尾期と松平期の遺構面を確認。掘立柱建物跡を検出。	2015 刊
H 25	松江城下町遺跡	南田町 134-1 外	松平期の与力屋敷跡の下に埋納された曲物容器と鉄の玉が出土。	2015 刊
H 25	松江城下町遺跡	南田町 132 外	江戸時代における 6 面の遺構面を確認。旧地表面からは中国白磁が出土。	2015 刊
H 25	松江城下町遺跡	殿町・母衣町・米子町・南田町	工事立会調査を 18 カ所で実施。石組水路、石列、素掘りの大溝を検出。	2018 刊
H 26	森屋敷遺跡	穴道町	弥生～近世にかけての遺構を検出。近代の製糸工場跡も見つかる。	2015 刊
H 26	長廻遺跡	上乃木町	縄文時代の落とし穴状土坑、古墳時代の土器埋納坑を検出。	2015 刊
H 26	茶山遺跡	浜乃木町	前期古墳 2 基を検出。	2014 刊
H 26	大場小原遺跡	大庭町	弥生時代の食料貯蔵穴や古墳時代の竪穴式住居跡等を検出。	2014 刊
H 26	北浦松ノ木遺跡	美保関町	縄文時代中期末～後期初頭の土器のほか、獣・魚骨等が出土。	2016 刊
H 26	廻り遺跡	西長江町	縄文～古墳時代の建物跡や土坑を検出。	2016 刊
H 26	松江城下町遺跡	南田町 134-1 外	江戸時代の与力屋敷を調査。畠跡も見つかる。	2015 刊
H 26	松江城下町遺跡	南田町 132 外	江戸時代の屋敷跡のほか、鍛冶炉跡や畠も検出。	2015 刊
H 26	松江城下町遺跡	殿町・母衣町・米子町・南田町	工事立会調査を 61 カ所で実施。石組水路、石列、素掘りの大溝を検出。	2018 刊
H 27	上岡遺跡	岡本町	古代の集落跡を検出。覆土からは須恵器も多数出土。	2016 刊
H 27	黒田下屋敷遺跡	黒田町	縄文～近世にかけての遺物包含層を検出。	2015 刊
H 27	森屋敷遺跡	穴道町	弥生～近世にかけての遺物包含層を検出。朝鮮半島系の土器も出土する。	2016 刊
H 27	大場北原遺跡	大庭町	弥生・古墳時代の竪穴建物跡をそれぞれ 1 棟づつ検出。	2018 刊
H 27	広垣遺跡	西長江町	自然流路とそれに伴う祭祀と思われる遺構・遺物を検出。	2017 刊
H 27	外屋敷遺跡	大庭町	8 世紀代の区画溝及び道路状遺構や中～近世の掘立柱建物跡を検出。	2016 刊
H 27	松江城下町遺跡	母衣町 43-2 外	江戸時代の 4 面の遺構面を検出。長屋門に伴う石垣も見つかる。	2015 刊
H 27	松江城下町遺跡	奥谷町 322	堀尾期では「牧九右衛門」の屋敷地と伝わる場所を調査。3 面の遺構面を検出。	2015 刊
H 27	松江城下町遺跡	殿町・母衣町・米子町・南田町	工事立会調査を 16 カ所で実施。石組水路、石列、素掘りの大溝を検出。	2018 刊
H 28	魚見塚遺跡	朝酌町	古代の道路を検出した。直線的な敷設を指向し、『出雲国風土記』記載の「枉北道」の可能性が高い。	2018 刊
H 28	光泉寺遺跡	山代町	古代から近世の柱穴等。中世の掘立柱建物は、隣接する山代沖田遺跡のものと連続する遺構と考えられる。	2017 刊
H 28	松江城下町遺跡	母衣町 115	江戸時代を通じての屋敷地を調査。洪水堆積の様相を呈する砂礫層を検出した。	2018 刊
H 28	松江城下町遺跡	南田町 108-1 外	城下町形成段階での幅 4.2m の素掘りの大溝を検出。埋戻しの際に旧地表面のラミナ層のみを使用していた。	2018 刊
H 28	朝酌菖蒲谷遺跡	朝酌町	古代道（枉北道）に接続する可能性のある道路遺構と、集落遺跡を検出。	2018 刊
H 28	柏木遺跡	西持田町	弥生時代中期後半から中世後半の遺物包含層を調査した。	2017 刊
H 28	松江城下町遺跡	殿町・母衣町・南田町	工事立会調査を 16 カ所で実施。屋敷境の溝、石列等を調査。南田町では幅 8m を超える屋敷境溝を検出した。	2018 刊

埋蔵文化財課年報 <22>

2019 年 3 月発行

編集・発行

公益財団法人松江市スポーツ・文化振興財団

印刷

松栄印刷有限公司

島根県松江市西川津町 667-1

